

# おおまま わがまま あるがまま



おおま  
わがま  
あるがま

みらいをつくる、みんなのさんぽ

1  
「あるがま」  
を面白がる

2  
「わがま」  
を育てる

3  
色とりどりの  
大間々

### 「おおま わがま あるがま」とは？

大間々エリアには、歴史や自然・文化といった豊かな資源があります。しかし、それだけでなく、この地域に根ざした知恵や特技を持つ人、大間々で日々の暮らしを楽しむ人たちの存在こそが何よりの魅力です。

大間々官民共創デザインのエリアビジョン「おおま わがま あるがま」では、このまちの個性や想いを「あるがま」に受け入れること、自由な発想や自分らしさを生かしながら新しい行動を起こしたいという「わがま」の芽を育てること、そして多様な魅力を持つ「おおま」をつくることを目指しています。

ここでいう「わがま」とは、ただ自分勝手に振る舞うことではありません。自分らしさを大切にしながら「我が間々」の一員として、自由に表現することを意味します。「あるがま」を面白がりながら、一人ひとりが胸に抱く「わがま」を育て、広げていくことで「おおま」の魅力がさらに深まっていくのです。

キャッチコピーの「みらいをつくる、みんなのさんぽ」には、さまざまな意味が込められています。「三方良し」の「三方」、歩きたくなるまちを表す「散歩」、そして新しい大間々を生み出すための3つのステップ「3歩」です。次のページでは、「おおま わがま あるがま」を実現するための「3歩」について紹介します。



**JUMP!!**

「わがま」があふれる「おおま」へ

まちなかに次々と「わがま」が集まり、それぞれが重なり合うと、思いもよらない未来への化学反応が生まれます。大間々の豊かな個性が出会ったとき、一人ではできなかったことが実現できてしまう。一人ひとりの「わがま」が、色とりどりの「おおま」をつくっていくのです。



**STEP!**

「わがま」を育てる

まちの魅力がつけられるのは、応援してくれる人がいたり、多様な関わり方があってこそ。一人ひとりがやりたいことを心の中で温めたり、他の人と分かち合いながら「わがま」を育てていく。そんなふうには、自分の思いを口にしやすい、描きやすいまちになると、自然とまち全体の温度も上がっていくようになります。

**HOP**

「あるがま」を面白がる

大間々エリアにはさまざまな個性が存在しています。歴史を感じさせるあの風景や驚きの得意技や趣味を持つあの人。それらのルーツに触れながら、それぞれの個性を面白がり、互により深く知ることが、大間々エリアの魅力そのものにつながります。



みらいをつくる、みんなの ” 3 歩 ”

## 4-2 都市経営課題の解決に向けた戦略

### ビジョンの方針

民間と行政が連携して  
まちなかの HUB 機能を再び高めることで  
エリアの魅力を向上させ  
ヒトとカネが集まる「おおまま」を作る

宿場町として、ヒト・モノ・コトの集積地だった大間々。大間々に住めば、働く、買う、遊ぶ、暮らしのピースのすべてがそろっていました。時代の変化によってバラけてしまった暮らしのピースを、再び大間々に集めることで豊かな大間々の暮らしが生まれます。

### 「わがまま」の事業化で まちなかの稼ぐ力を育てる

- ◆「あるがまま」の魅力を再認識し、「わがまま」の事業化を推進することにより、エリアの稼ぐ力を向上させます。
- ◆中でも、クリエイティブ産業をはじめどこに居ても働ける職種の人材や副業人が「おおまま」を選んで働きたいくなる環境づくりを行います。

### 「おおまま」に ヒトとカネが集まりはじめる

- ◆まちなかに魅力を感じる人が増えてくるとまちなかの消費活動が徐々に活発化します。
- ◆訪問者だけではなく、出店希望者の増加にもつながり、結果として近隣に居住を希望する人も増えていきます。

### 「わがまま」の集積が まちなかのイメージを向上

- ◆「わがまま」がまちなかに溢れていくことにより、「おおまま」のエリアイメージが徐々に向上していきます。
- ◆エリアイメージの向上は、路線価の向上ひいては税収の向上につながり、まちなかへの再投資が見込めるようになります。

### 民間と行政の連携の必要性について ～民間主導の官民共創とは～

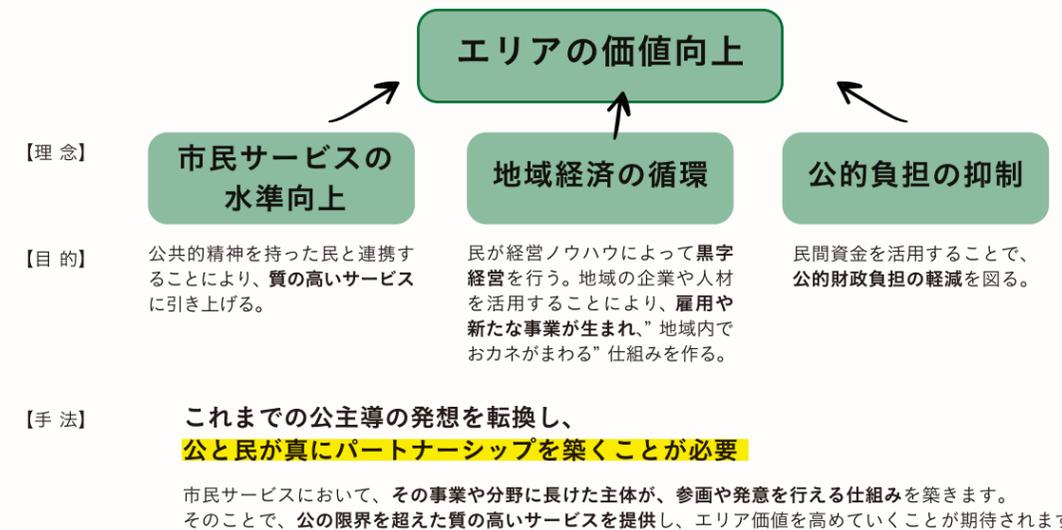
今後、人口減少や少子高齢化に伴い、税収の減少や社会保障費の増加が見込まれます。また、産業構造の変化やモータリゼーションの進行によりまちなかの人が減り、空き店舗や空き地が増加し、エリアの価値が低下しています。

地域の課題は多様化しており、これまでのように行政のみですべてに対応することは難しくなっています。そこで、民間のノウハウや技術を活用して、公共サービスの向上や業務効率化、予算の有効活用などが求められています。

市は民間事業者を、そして民間事業者は市を、お互いに信頼した上で手を取り合う共創のまちづくりを進めていくための共通の指針が大間々官民共創デザインです。



### 他都市においても民間主導のまちづくりが積極的に行われています



「大東市公民連携基本計画」より抜粋